

<p>交流ニュース 第99号 2013年3月</p>	 <p>フレスタ Friendly Star</p>	<p>学園&地域交流ネットワーク 八幡西区折尾 4-10-1 http://friestar.com info@friestar.com</p>
------------------------------------	--	---

折尾駅舎、3月中に完全解体

昨年11月より解体されている折尾駅舎は、駅舎の周りに覆いがされて解体の様子が殆ど見えませんが、覆いから飛び出していた屋根の上部も、今はもう見えなくなってしまいました。

残念ですが、3月下旬には更地になってしまいます。

北九州市の【折尾駅舎の保全・活用に向けた基本的な考え方】

24年2月、おりお未来21協議会から、北九州市とJR九州へ折尾駅舎の保全・活用には、歴史的な外観を有する建造物として、北口に整備される折尾地区のメインゲートを担う「新駅舎」での再現を望みます』と要望書が提出されました。

これを受けて、北九州市は【折尾駅舎の保全・活用に向けた基本的な考え方】を公表しました。

- 構造や部材等の調査を行い、歴史資料とともに記録を整理・保存します。
- 大正5年当時の駅舎の外観については、可能な限り再現します。
- 駅舎のシンボリックな部材については、保存・復元を基本とします。

当会から、北九州市への再陳情

北九州市議会議員の改選で議会の構成が新しくなったことにより、24年までに陳情し継続審議となっていたものは引き継がれなくなりましたので、下記のことを再陳情することにしました。

- ① 新駅舎を、立体交差駅を証明する左右アンバランスの外観にして頂きたい。
- ② 新駅舎の2階に、歴史資料室と展望スペースを設置して頂きたい。
- ③ 折尾駅の部材をできる限り残し、新折尾駅などに活用して頂きたい。
- ④ 歴史遺産を活かしたまちづくりにして頂きたい。

【再陳情の主な理由】

- ・折尾駅は日本最古の立体交差駅であり、最大の特徴は立体交差駅であることを証明する左右アンバランスな外観であるが、10月13日に北九州市長が公表した新駅舎のデザイン案は、左右対称の外観であった。その理由は、デザイン的に左右対称が美しい、2階翼部分が不必要になったことで、技術的に2階翼部分の建設は可能であるとのこと。
北九州市の【折尾駅舎の保全・活用に向けた基本的な考え方】には、『大正5年当時の駅舎の外観については、可能な限り再現します。』と明言されているので、歴史性を優先して駅舎の外観は左右アンバランスなデザインにして頂きたい。
- ・23年度に取壊された「西鉄電車赤煉瓦アーチ高架橋」は折尾駅舎同様に記録調査されたが、資料を見るためには、小倉の文書館に行政文書の開示を請求しないと見ることができない。
- ・折尾駅は交通の拠点であり、大学9校・高校5校の最寄り駅である。利便性のいい折尾駅に歴史資料室をつくることで、歴史や技術、先人の思いを子どもたちにも伝えることができる。
- ・「駅舎以外のシンボリックな部材（赤煉瓦の立体交差や連絡通路、古軌条のレール支柱など）については、保存するか否かの話がされていない。
- ・折尾駅周辺には、日本の近代化産業に貢献した近代化産業遺産の「堀川運河」や「西鉄電車赤煉瓦アーチ高架橋（ねじりまんぼ）」など数多くの貴重な歴史遺産がある。